

平成20年度

社会を明るくする運動 優秀作品の紹介

7月は“社会を明るくする運動”強調月間でした。この行事の一環として、市民の皆さんへ標語・作文の作品を募集したところ、多くの作品が寄せられました。

厳正な審査を行い、優秀作品が決定しましたので、入賞した作品を紹介します（敬称略）。

【標語の部】

目をそらさず 勇気をもって 「Yes」「No」

大嶺小学校6年 嶋村 美咲

だめだよ、と ちゃんと言える 強い心

大田小学校3年 岡藤 愛来

一人じゃない あなたを助ける 人がいる

大嶺中学校2年 小阪田祥太

声を出し 笑顔で挨拶 つながる社会

成進高等学校1年 酒井 龍

【作文の部】

「犯罪を考える」

大嶺小学校5年 清元 莉乃

「モラルの低下」

秋芳北中学校3年 松原 光

「犯罪を考える」

大嶺小学校5年

清元 莉乃

私の将来の夢は検察官になることです。この夢は小学一年の時から変わっていません。私の祖父の部屋の本棚にとても厚い本がありました。その本は六法全書で、気に入った私は最初の憲法第一章だけ、大きめの暗記帳に全部ひらがなで書いてもらいました。全部暗記したら家族全員ですごくほめてもらって、嬉しかったことを覚えています。一年生の時に法律という社会の秩序を守るための手本があることを知って、この法律があるから日本の国が平和でいられたのだと今はそう考えています。だけれど、最近では毎日ニュースでもとても悲しい犯罪がおきています。中には、私と年の近い中学生や高校生がおこしているものもあって、とても驚いています。

「なぜ、犯罪がおきるのでしょうか？」

私は考えてみました。犯罪者になりたくて生まれてくる人はいません。生まれてから犯罪者になるのです。だとし

たら、生まれてからどんな生き方をしたかが犯罪を解決するポイントになると思います。私が生まれた年に、史上空前の犯罪がおきたそうです。それは、神戸連続児童殺傷事件といえます。この事件をおこしたのは14才の少年でした。二人の子どもの命をうばい、連続通り魔事件で女の子にケガをさせました。少年は三人兄弟の一番上のお兄さんで、性格はおとなしくてのんびりしていたそうです。二年生の時から少林寺を習って中学になるまで続けていました。勉強は苦手だったけど、その少年の母親は人間性が良ければ勉強が出来なくてもいいと思っていたそうです。趣味はゲームとビデオでした。私はこの少年は自己評価が低かったから、だんだん心がこわれていったんだと思います。幼稚園の時は何をしてもほめられていたけど、小学生になると努力をして頑張ったうえに結果が出ないと親も友達もほめてくれません。私は中学生になっていないのでまだわからないけど、もっと人にみとめてもらう事が難しく

なるんじゃないかと思っています。学校は、勉強やスポーツなんかだと評価をもらいやすいけど、この少年のようにいろんな種類の映画を知っているとかがゲームが上手だったりしても、それを周りの人にほめてもらうのは難しいと思います。だから、小学校でいろんな分野の選択が出来て一人一人が自信を持つことができたら、中学高校生の犯罪は少なくなると思います。後は、法律を授業で教えて子ども時から社会の秩序を守るという意識を持つべきです。人間は強い面も弱い面も両方もっているから、弱い面が出たときに心の盾になってくれるもの、それが法律だと思います。これから犯罪のおこらない世の中にしていくために、今私達が立派な大人になっていく事が大切だと思います。私はこれから法学部に入って日本の国がもっと良くなるように、今出来る事を一生懸命頑張ります。私達が未来の日本をかえていきます。

